

～ Shin ～

深く記憶に残る

11月29日

修学旅行を終えて

11月12日(土)から15日(火)まで沖縄方面に修学旅行に行ってきました。

伊丹空港に集合し出発する当日の朝に、阪急岡町駅で人身事故があり宝塚からの電車が止まってしまいました。当初は2時間、電車が動かないと言われていて、私は正直学年の大半が間に合わず、修学旅行自体も中止になってしまうのではと心配していました。しかし、スタサブ・ロイロに阪急・JR伊丹まで来てバス・タクシーなどを使って空港まで来るようにメッセージを送り、また、見た人は、クラス LINE などでも連絡してくださいとお願いをしました。そして、驚くことに皆さんの協力のおかげで全員が空港に集まることができました。それは、皆さんが臨機応変に対応し、焦らず行動してくれたからこそだと感謝しています。



また、修学旅行では、たくさんのいい経験ができ、いい思い出ができたと思います。予定通り実施できたことに感謝しています。しかし、中学校では、宿泊を伴う行事がなくなったりして本来、経験していることもコロナで出来なかったりとがまんをしなければならない事もあったと思います。その影響からか修学旅行中に失敗もありました。しかし、その失敗があったからこそより成長できるのだと思います。集団で行動することの難しさ、時間を逆算して行動すること、他者との関わり等、この修学旅行で経験したことは今後の人生に必要なことだと思います。

また、クラス・学年の友人たちと寝食を共にし、より絆が深まったのではないのでしょうか？これから先、受験があり苦しい時期もあると思いますが、より団結した45回生みんなで支え合い乗り越えていってくれと信じています。自分一人ではなく周りに仲間がいることに感謝しましょう。

また、個人旅行では体験できないことを修学旅行では、見て、聞いて、感じる事ができたのではないのでしょうか？

それぞれが感じた感想を紹介しますのでぜひ読んでみてください。

～平和学習 生徒感想から～

Aコース 沖縄戦跡を巡る平和学習

・こんなに狭いガマの中に、多い時には1000人もの人が運び込まれて、足の踏み場もなかったと聞いて、すごく気持ちが重くなった。医療機器も少なくなっていて、麻酔もせずに手術をし、あばれる兵士を抑える役割をしていたのが、私たちと同じ年くらいの女の子だったと聞いて、もし自分だったらと考えると怖くなった。兵士たちも、私たちの年代の子もいると聞いて、今の時代では考えられない事なので、想像したら悲しくなった。みんな、死んでいくときは家族のことを一番に考えるのだと教えてもらい、家族の大切さを改めて実感した。今までのどの平和学習よりも一番命の大切さについて考えさせられた平和学習だった。今日、教わったことを忘れずに、これからも命と家族を大切に生きていこうと思った。また、今日学習したことを家族にも伝えたいと思った。



・初めてガマに入りました。説明してくれている話を聞いて泣きそうになりました。私の年の近い学生が暗い中、足も伸ばせない狭い部屋で眠らないといけなかったと今の私ではありえないとびっくりしました。今の私はとても幸せだなあと改めて感じました。重症の病人がガマに置いて行かれて苦しみながら死んでいった話を聞いて苦しかったです。戦争でも使えなくなった人がこんな簡単に捨てられてしまうのかと悲しくなりました。



・実際に系数アブチラガマに入ってみて、現在は手すりがついてたり、懐中電灯などで足元、手元を照らすことができるようになりましたが、当時は灯りが一切ない上、悲鳴やうなり声が響き続いていたというお話を聞き、当時の状況を想像すると心が苦しくなり涙が流れました。

また、爆風で焼け飛び天井に今もなおくっついている屋根を見て、70 年前を感じることができ、その体験とともに命の大切さを再認識することができました。

・私は、Aコースのガマは沖縄に来る前から「汚れる」「滑りやすい」と聞いていたので、正直行きたくないと思っていました。でも、実際に当時使われていたアブチラガマに入ってみると、想像を超えるほど真っ暗で、案内してくださった方のお話を聞くと印象に残るものばかりで、来て良かったなと思いました。お話の中で私が一番印象に残ったのは、ガマの天井に当時爆弾で吹き飛ばされた屋根の一部がそのまま残っていたことです。天井も黒く染まっていた、話を聞いていると本当にその場に自分もいるような気がしてとても胸が苦しくありました。そして、ひめゆり学徒隊のお話も印象に残っています。私たちと同じくらいの人達が国のために働くという話を聞きました。切断された手足を外へ運ぶことも仕事だったと聞いてゾワッとしたし、考えられませんでした。資料館では、実際の映像や写真があり、思わず目をつむってしまうほどでした。今まで、戦争について考えることはあっても、実際に使っていた環境に触れる機会はなかったので、本当に貴重な経験となりました。



・兵庫県民だった島田観さんは、沖縄が地元じゃないのに沖縄のために一生懸命頑張って、沖縄のために尽くし亡くなったと聞いて私も何かに一生懸命尽くせるような人になろうと思いました。そして、自分の命はもちろん、他人のことも大切にしながら、これからの人生を過ごしていきたいです。

・教科書で見たガマと生で見たガマは全く別物でした。今まで、ガマは少し薄暗くて普通にスペースがある所だと思っていましたが、実際に行ってみると、灯りがないと本当に何も見えなくてしかも、雨のせいなのかわかりません

が、地面も少しぬかるんでいて、しかも空気も重く、こんな所で半年も過ごしていたことにとても驚きました。さらに、破傷風者や脳傷者などは食料も与えられず、そのまま放置をされ、死を迎えるという話を聞いて、ものすごく胸が痛みました。本当に戦争はいけないことだつくづく感じました。さらに平和資料館では戦争の概要が色々と平和について学びました。

・改めて戦争はする必要はあったのかなと思いました。平和資料館に行き、悲惨な写真や墓の数を見て悲しい気持ちになりました。その数の犠牲者を出したとしても戦争をしてなんのメリットがあるのかを考えました。何も関係ない人が巻き込まれ家族を失い、悲しみ、そして一生背負わなければならない障がい抱え生きていかなければならないことに、とても胸が苦しくなりました。今日学んだこと、戦争をしても得るものはないということを将来につなげていけるようにしたいです。

Bコース ガマから学ぶ平和学習

・私はこの平和学習のコースを選択する際に、「ガマ」とは何かということを全く知りませんでした。しかし、今回現地へ行き、ガマの中には入ることはできないけれど、ガマの前でお話を聞いているだけで、ガマで起こった悲惨な当時の光景が目に見えてきて、とても暗く辛い気分になりました。日本

のアメリカに対する教えをきちんと守ってしまった人が、自分や家族によって自ら命を落とす選択をしてしまったことが悲しいです。修学旅行だからといって軽い気持ちでガマに来てしまった安易な考えをしていた自分が本当に恥ずかしくなりました。「平和」とは何かについて改めて考えさせられたし、沖縄で起こったこの話を絶対に忘れてはいけないし、お話を聞いた私たちが今後は次の世代に語り継いでいかなければならない出来事だと思います。

・当時、沖縄戦争によるアメリカ軍の攻めで、たくさんの民間人の被害が出た。アメリカ軍に殺されるより、自分で自分を刺して自害した方がマシという考えまでに至ったのがとても衝撃的だった。しかも、自分の親に殺させようとしていた人もいたということを知ってとても驚いた。そんな中、最近、そのガマを荒らすものがいるということを知った。その場の雰囲気や軽い気持ちで足を踏み入れたり、肝試しをしに行ったりなど、しょもない理由で親族の墓でさえも荒らす人に少し腹が立った。このことで親族や他人がどれほどの痛みを負いどれほどの悲しさを持っているか考えるべきだと思った。戦争だけに限らず、平和につながるすべての事柄に目を向けて考えることはとても意味のあることだと思った。

・ガマの目の前に行っただけでも少し空気が変わったように感じました。ガマの中でたくさんの人々がなくなったと聞いて、今の私には想像ができないくらいすごく辛く悲しい出来事だったと思います。聞いているだけでも少ししんどくなるような部分もありました。沖縄の戦争の話はあまり詳しく知らなかったのも思っていた以上に辛かったです。38 年という時を越えてガマの話が受け継がれていて平和のために残そうとした考えはすごく強いものだと思います。辛く、しんどいこともたくさんあり、改めて戦争をしたところで何も良いものは生まれないのだなと思いました。そして、今自分が戦争に巻き込まれていないのは嬉しいことだと思い大切に生きていこうと思いました。

・チビチリガマで、ガマに隠れている人たちがアメリカの人を倒すために、子供にまで武器を持たせて戦おうとしたという話を聞いて、今ではあり得ない話なので実感がわかなかったけど、亡くなった方の名前が記されている慰霊碑を見て、本当にあったのだなと心が苦しくなりました。かしこくて美しい女性が母親に最後の言葉を伝えて、母親の手で命を奪われたという話を聞いて、本当に心苦しくて涙が出ました。こんなことは本当にあってはならないと思うけど、自分にできることは周りの人にこの話を伝えることぐらいしかないので、伝えていきたいと思います。ガマの近くにつくられた像や、千羽鶴が、沖縄の人にこわされたという話を聞いた時、とても腹が立ってありえないと思いました。でもそれに参ることなく再び作った人々は、本当になくなった人々のことを心から思っているのだなと感じました。美術館の大きな絵からも、人々の悲痛な声や、考える、見る力を伸ばしてほしいという気持ちがとても伝わってきました。

・今日、ガマを初めてみて、まず初めに思ったことが、最初にガマの前に行った時に、空気感がバスの中にいた時とガマの前とじゃ違うくて、ただ空気が悪いというより、ガマで亡くなった人などの恨みなどが気として集まっている感じがして、ガマを見て話を聞くだけでなく、体験できたので、より沖縄戦争のことに近づきよくしました。当時は、自決するほど苦しかったことが語り部さんの話し方などで分かり、私の年齢とほとんど変わらない 18 歳の少女が下した自決の決断は、人によって見方が変わると思うし、当時の集団自決をした人も、自決をすることが幸せなのかなとよく考えられる話でした。戦争のことについて学んでいた人がシムクガマで自決を図ろうとした人達を止めたことによって、死者は 0 人という、シムクガマとチビチリガマでの生死を分ける判断は当時の戦争の知識が浅かったからだと思いました。ガマを荒らす人や戦争に対して悪く言う人など知識をつけつくと起こらない問題が実際に起こってしまったので、私たちは後世に伝えて、より深く知ることを大切に学習したいと思います。

・戦争は本当に「必要ない」と断定していいと思いました。人間はせっかく考える脳、言葉を伝えられる口があり、仲間つながりが強いのに戦争なんてするのだろうか。戦争は負しか生まない。忘れてはいけない。今日、お話をしてくれた、3 人は 3 者 3 様の伝えたいことが伝わってきました。みなさんの心の底から若い世代に伝えていかないといいけないというバトンを何か受け取った気がしました。本当にここに来てよかったです。

・戦争について、ニュースで聞いた事、中学校で触れた事はあったが、自身が体験していない事としてどこか本気で考えていなかったが、今回実際にガマを見てその場で、ここで何が起ったのかを聞き、我が子、親や親戚を互いに手を掛けなければいけない、どんな気持ちだったか想像もできない、その方たちにしかわからないけれど、苦しい思いだったと思う。小さい子供も武器を持ち、命を落としたと聞き、もっと生きたかったのだろう、おなかですいていたのだろうと想像しかできないけれど、今の自分がいかにに幸せかを改めて感じた。美術館では沖縄戦を絵という観点から、表現し風化させないために絵の中にメッセージ性をこめているのが伝わってきました。絵というのは、見る人によって感じ方、感じるメッセージの表現が違ってきていて、友達と話していた際にこんなにも感じ方が違うのかと実感しました。だからこそ、それぞれが受け取ったメッセージを胸にとめて考えていかなければならないと思いました。

・美術館での話では、沖縄は米軍基地が日本の70%を占めているという話をされました。今まで沖縄で米軍基地がたびたび問題になっていることは知っていたけれど、どうして沖縄の人は米軍基地のことをこんなにも嫌っているのかよくわかりませんでした。しかし、今回の話を聞いてアメリカの米軍基地があることによって、沖縄県民や子供たちはいつも危険にさらされていることが分かりました。また、沖縄県民は人口が150万人ほどで、日本の人口の1%ほどであるから米軍基地の問題が全く改善されていないとおっしゃっていました。沖縄県民だけでなく、私たちが将来政治に参加する時に、この米軍基地の問題にしっかり取り組む必要があると思いました。



・アメリカ人の兵に残酷な姿で殺されるよりはきれいなまま母親に殺されたいと思った少女と自分より大事な娘を殺すことを決めた母親の気持ちは想像できないくらい辛いことだったと思った。授業などで日本人が持っているアメリカ人に対する偏見？について知っていたからこそ、ガマの近くにアメリカの兵が来た時、殺されてしまうとしか考えられなかったと思う。一方ハワイに住んでいたおじいちゃんたちがアメリカの兵たちは民間人を殺さないとガマに避難していた住民に伝えることによって全員生き残ることができた。

今の時代、インターネットとかでたくさんの情報が飛びかっている。インターネットだけでなく人から聞いた話を鵜呑みにせず正しい情報を見極めることや人から聞いた話ではなく自分が実際に見たり経験したことを信じるのが大切だと思った。

・米軍が沖縄に攻めてきて、子供から年寄りまですべての人が戦争に苦しみました。兵士ではなく、一般の住民も戦闘に巻き込まれ、沖縄は血の海になりました。沖縄戦では死ぬか捕虜になるかの選択で多くの人が苦しみました。チビチリガマでは、集団自決が行われました。「チビチリ」の由来が気になって調べると「チビ」が尻を「チリ」が切るを意味し、チビチリガマは浅い谷の底にあるが、谷底を流れる細い川がチビチリガマへ流れていくときに最後にどこへ流れていくかわからないことからこの名が付いたと書いてありました。私は美術館で見た、真実を見つめる少年が印象に残りました。私たちが戦争の悲惨さを受け止め、真実を知り、よりたくさんの人に伝えていかなければならないと思いました。

・佐喜眞美術館の大きな絵の前での話には、人を描くにあって一番大切な目がかかれていないそうです。なぜかというとそれは、亡くなった方々の無念を表すためだったそうです。この絵には集団自決についても描かれていて、戦争の悲惨さを知ることができました。普天間基地は、沖縄にある基地面積の2%ほどだそうです、少しでも早く取り戻せることを願っています。

・美術館の屋上で説明してくれていた男の人が言っていた中で「沖縄の人が全員基地の問題について声を上げて日本全国の1割にしかならない残りの9割の人達が無視してしまえばそれまで。だから日本全国の人が沖縄の問題について考えなければいけない。これは沖縄だけの問題じゃない日本全国の問題だ」みたいなことを言っていたのを聞いて、自分も確かに沖縄の問題をどこかひとごとにしてしまっていることを再確認させられました。

・とても衝撃的な内容のお話が多く、強い印象に残ったこともたくさんあります。チビチリガマで聞かせて頂いたお話ではその中でも特に、集団自決の発端となった18才の少女が印象的でした。愛国精神が強い少女とガイドの方は表現されていましたが、実の母親に殺してほしいと懇願するほどの強い愛国精神は、現代で生きている自分にはやはりどうしても理解が難しいものであり、そこに当時の人々の状況の恐ろしさを感じました。恐らく自分がその時その場所に生きていたのなら、少女の考え方に何の違和も感じることはなかったのだろうと思います。悲惨な状況に対して辛いと感じることのできない作り上げられた人々の精神状態が何よりも異常なもののように感じました。佐喜眞美術館の方から聞かせて頂いた基地のお話も含め、日本人である自分が当事者としてどうこの出来事と向き合えるかどうか考えていきたいです。

Cコース 沖縄が抱える問題

・沖縄はアメリカから独立して今年で 50 年になります。しかし、独立したとは言え、今でも県の 70%はアメリカ軍の基地として使われており、アメリカ軍の人が快適に過ごせるように私たちが払っている税金の10億円くらいのお金を費やしていると知って、沖縄は本当に独立したとは言えないなと思いました。また、町の中にはアメリカ人の人がたくさん残っていました。例えば、Barや両替所、仕立て屋などがありました。私が今回一番驚いたことは沖縄の発展は戦争があったからということです。アメリカの植民地になってから、2回戦争があり、たくさんのアメリカ人が沖縄に来了そうです。その時にたくさんのドルを落としたため発展したと言っていました。沖縄がアメリカから本当の独立を少しでもできるように私たちができることは少ないけど、少しでも本当の独立ができるように願っています。



・戦争当時の建物や看板などが多く町に残っており、まるでタイムスリップしたかのような感覚を覚えたほどだった。毒ガスや少女をはねて死亡させたりなど、米軍が起こした多くの問題が円満に解決したらいいと思うし、こういった非人道的なことが令和の時代に起こらないように良好な関係の持続に努めてほしいと思った。自衛隊は日本の軍隊ではないため、アメリカに防衛してもらわなければ外からの戦争の要因を防ぐことはできないと思う。6千億円を払うことに対して負の感情を覚えるなら自衛隊が日本の軍隊として国を100%防衛できる体制づくりをしていかなければならなのではないかと思った。今、アメリカと日本は深い同盟関係で結ばれているが、それは過去にあった戦争や今払っているお金など、決して情だけでつながっているものではないことを改めて学ぶことができた。

・初めて沖縄の町を訪れて歩きましたが、私が住んでいる西宮と比べて、英語表記の看板が多いなと思いました。印象に残っているのは島田さんという人の話です。兵庫県出身で沖縄に赴任して、たくさんの沖縄の人を救った人ですが、中学生の時、この人の映画を見たことがあってとても記憶に残っていたのでその話の場所に行くことができてよかったです。同じ日本でも、ここまで雰囲気が違うのだなと思いました。

・今まで、沖縄の人が米軍基地に対して移転を要求しているのは知っていたが、なぜ要求しているのかは知りませんでした。しかし、今回実際に行ってみると戦闘機の騒音が想像以上に凄く、確かに近隣住民からすると大変迷惑だろうなと感じた。それに加えて歴史的な面でも沖縄県民が米軍を嫌う理由があるのかなと思った。

・ゲート通りを見ると世界大戦の当時の兵士たちの様子やアメリカ軍基地などをしました。世界大戦からかなりたった今でもアメリカ軍の人達がよく訪れる散髪屋やワッペンショップなどがありました。沖縄市戦後文化資料展示館では日本の軍人の方がマスターに名前を書いたお金を渡し戦争から帰ってこられたらそのお金でお酒を飲むといったお守りのようにしているというエピソードを知り、戦争は誰も望んでいない結果を生み出してしまうことを知りました。アメリカ軍基地は沖縄全体の約34%

を占めており軍基地内はホテル、スーパーマーケットなど1つの町のようになっているとしました。

・終戦から年月が経って、あまり名残のようなものは残っていないのかなと考えていましたが、思った以上に残っていて驚きました。歴史館では色々な資料があり、日本の悲惨な過去やアメリカ兵の出兵前の物語などたくさんの資料がありました。このような過去を繰り返さないために、何をしなければならないのかを考えて行動することが大切だと思います。

・まち歩きでは、ヒストリートという所へ行きました。そこでは、沖縄市の戦後について学びました。戦後の生活雑貨や写真、資料などが展示されており、コザの過去が一目で分かりました。米軍基地の存在が市民の日常生活にどのような影響を及ぼすのかなどについて学びました。また、コザ暴動についても学びました。車が何台も横転している写真を見てとても驚きました。この頃も差別がひどく、人をひいたのに無罪になった人がいたり、とてもひどい状況だったということを知りました。米軍基地の問題は今も、続いているものなので、他人事ではなくて、きちんと全員で考えなければならない問題だと思いました。

～修学旅行 生徒感想から～



・ずっとずっと楽しかった修学旅行は想像以上に大変で想像以上に楽しかった。沖縄戦争について、沖縄の伝統や文化・方言たくさん知ることができた。きれいな海や水族館、とてもすごかった。うまくいかないことが多く大変だったけど、友達と過ごす四日間はとても大事な時間ですごく楽しかった。とても良い思い出になった。良い経験をすることができてとてもうれしく思う。

・全体を見て失敗してしまったことも多かったと思うけれど、出発前に先生が言っていたように、自分の見えないところで動いてくれている人がいる、そういったことに気づくアンテナをたてることは、少しかもしれないけどできたと思います。



・修学旅行の中で、もともと知っている友達以外の人との交流をする時間があって、いろんな人とコミュニケーションをとれたことがよかったと思います。やっぱりコミュニケーションは大切だと改めて感じたし、それは学校生活でも続けたいです。

楽しむために、できるだけルールを少なく、そしてそのルールをきっちり守って全員が楽しめるような環境を作っていきたいのに、大半の人が守っている中で、誰かがそれを破る。少数でも、そういう人がいれば周りから見れば全体としてレベルが低い集団になる。そんな学年を早くもっといい学年に変えないと思った。

・中学生の時に行けなかった修学旅行を通して、私は自主性が育ったと思いました。四日間、普段と違うスケジュールの中で、しおりを見て行動したり、時間を逆算して動いたりすることはイレギュラーだったけれど、良い刺激になりました。四日間で話したことがなかった人たちとも話せる仲になれて嬉しいです。



・1日目からハプニングがあり、3日目の夜に大事件があり…。とてもいろいろあった修学旅行だと思いました。本当に笑いあり、涙ありって感じです。今回の修学旅行は、旅行委員をして貴重ないい経験をしたなと思いました。レク終わった後の達成感、すごかったです。最後はみんな笑って終われたらいいなと思います。沖縄にめったに行くことがないのでとても楽しかったです。少しでも自分自身、成功して帰ってきてほしいなと思います。



・全体で行動することの難しさや統一することの大変さを学びました。次、大人数で行動する時は、先のことをみんなが考えていけば今回みたいなことにならないと思います。また、集合時間から逆算して、間に合うように考える力もついたと思います。これからは学校でもプライベートでも常に先のことを考えて行動しようと思います。

・色々なことがあったけれどトータルでよい経験もできたし、思い出ができたので良かったです。学年全体的にダメなことに気づいていても注意できなかったりする人が多いように感じました。だからダメなことをしている人たちの自覚がうすく、人に迷惑のかかることを起こしてしまうと思います。ルールの中で全力で遊び、我慢するところはすることができるようになるとよりよくなっていけると思いました。



・数年ぶりの修学旅行はすごく楽しくて、色々な体験ができました。SDGsでは沖縄で起きた戦争の歴史を学び自分が知らなかったことをたくさん知ることができました。2日目、ずっと楽しみにしていた美ら海水族館はとてもきれいでたくさん写真を撮ることができたので良かったです。そして、この日はとても晴れていて美ら海がすごく青く輝いていて初めてあんなきれいな海を見れました。沖縄の人々が海やサンゴを大切にしているからこそある海なんだなと思いました。

私は、集団であるという認識を忘れてはいけないということを学びました。最終日の前日に言われた通り各自が周りに配慮することが大切だと思いました。失敗も成功も含めて、一番楽しい旅行になりました。

・私はこの修学旅行で初めて、沖縄を訪れました。沖縄は昔、琉球王国だったので、その影響によって、生まれた沖縄独特な雰囲気や文化があるのかなと思っていました。実際に行ってみると、自分の住んでいる地域と違う文化があったりして、興味が湧きました。色々な体験をしましたが、一番心に残っているのは海です。とても綺麗で感動しました。シュノーケルをした時に、海の底まで見えるほど、透明な海で色鮮やかな様々な種類の魚を見ることができました。他にもたくさん楽しかったことがあるので、また是非沖縄に行きたいと思いました。



2 学期期末考査

2 学年としての定期考査もあと 2 回になります。2 年生はよく「中だるみの学年」と言われますが、それは学校生活にも慣れ、「甘え」が出てくるから「中だるみ」という言葉でごまかしているように思います。生徒の皆さんだけでなく、それは、私たち教師も一緒に言わなくてもわかっているかなとか大丈夫だろうと「甘さ」があるのかもしれませんが。お互い妥協せずに「やるべきことをしっかりやる」そんな風に 2 年生を過ごしていきましょう。

12 月 6 日(火)から 2 学期期末考査です。計画を立て臨むようにしてください。

12 月 6 日(火)

	1 限	2 限	3 限	1 限	2 限	3 限
理系	英語表現Ⅱ	数学ⅡⅢ α		現代文B	物理/生物	
文系	英語表現Ⅱ	数学Ⅱ 数学Ⅱ基礎		現代文B	世界史A 日本史A	
LAC	英語表現Ⅱ	数学Ⅱ 数学Ⅱ基礎		現代文B	地学基礎	フランス語 英語表現

12 月 7 日(水)

12 月 8 日(木)

	1 限	2 限	3 限	1 限	2 限	3 限
理系	保健	地理B	数学ⅡⅢ β	古典B	数学B	
文系	保健	日本史B 世界史B		古典B	数学B ライフデザイン	
LAC	保健	世界史B		古典B	数学B ライフデザイン	

12 月 9 日(金)

12 月 12 日(月)

	1 限	2 限	3 限
理系	ComⅡ	化学基礎 化学	
文系	ComⅡ	化学基礎	
LAC	ComⅡ	化学基礎	

～今後の予定～

GTECを以下の日程で行います。(欠席者は 20.21 日に受験することになるので休まないように)

12 月 15 日(木) 1 限 2-6 3 限 2-5 4 限 2-4

16 日(金) 1 限 2-3 2 限 2-2 3 限 2-1

19 日(月) 3.4 限 全クラス 3 技能

12 月 13 日(火)～22 日(木) 午前中授業

12 月 15 日(木) 消費者教育講演会(2 限)

16 日(金) 通級人権講演会(4 限)

20 日(火) 小論文模試(3.4 限)

23 日(金) 終業式

24 日(土)～1 月 9 日(月) 冬季休業

1 月 10 日(火) 始業式 2 限～4 限 課題考査(国・英・100 問テスト)

11 日(水) 1 限 課題考査 物/生(理系のみ) 2 限～平常授業

1 限～ 文系・LAC 平常授業